

長崎県亜熱帯植物園からの植物導入

高井敦雄・堀川大輔・磯部 実
佐々木敏之・山本昌生

平成28年の夏、長崎県亜熱帯植物園（以下「当園」）が平成29年3月末に閉園するとの情報を得た。広島市植物公園（以下「本園」）大温室は平成28年2月よりリニューアル工事を開始しており、限られた予算の中、大型植物の新規導入に苦心していた。そのような状況のため、当園から大型植物を無償で導入できないか長崎県観光振興課と当園に打診したところ、長崎県内に受入先がなければ可能だろうと回答いただいた。

当園の植物の現状や本園に移送する際の問題点等を把握するため、平成28年10月に当園に赴き、温室内植物のほか、屋外の植物も調査した。温室内植物では、プセウドボンボックスの一種が目を引いた（写真1）。当園では、一度も開花したことがないとの話であったが、株元から3本に分枝し、幹周の和はおよそ2mと国内でも有数の大きさであった。すぐ隣にもう1本小ぶりの株（幹周50cm）もあり、この2本を本園の導入希望植物リストに上げることとした。

屋外には、姿形の良い大型のトックリキワタが複数あり、毎年開花結実することから、姿形が一番良い1株をピックアップした（写真2）。その他、オオバナソシンカやピンクイペー等をリストアップした。長崎県観光振興課および当園より、根回し作業は、屋外の植物については閉園期間中に実施して構わないとの話をいただいた。屋内の植物については、閉園後の平成29年4月以降に実施してほしいとの話であった。

そこで、長崎県観光振興課や当園と調整の上、屋外植物のトックリキワタとオオバナソシンカ、ピンクイペーについては、平成29年2月に根回しを実施することとした。作業はピンクイペーから開始した。最初に剪定をし、幹の直径のおよそ4倍に根鉢を設定し、周囲を掘り進んだ（写真3）。礫が多く、作業は難航した。太い側根を3本環状剥皮を行い、その他の側根は切除した。不織布で樽巻し、環状剥皮部分は本園より持ち込んだ草花培養土で埋戻し、それ以外は掘り上げた在来土で埋戻した。しかしながら、礫が多かったため、掘り上げた在来土では足りず、周囲から在来土をかき集めて埋戻した。その

後、水決め、支柱立てを実施した。

次にトックリキワタの根回し作業を実施した。こちらは定植時に客土を施していたため、礫が少なく、作業は順調に進んだ。ピンクイペーと同様に作業を実施した。最後のオオバナソシンカの根回し作業では、数本候補株があったが、どれも大量の礫が混じっており、作業の難航が予想された。しかし、観賞価値が高く、これほどの大株は今後導入できないと考え、悪戦苦闘しながら、帰広の出発直前に作業を終えた。

当園からの植物の移送は、植物の負担等を考え、梅雨時に本園に運び込む計画としたことから、屋内植物の根回しについては、当園が閉園した直後の平成29年4月に実施することとした。2月の根回しと同じ手法で、プセウドボンボックスの一種2株（写真4）、ミツヤヤシ、タビビトノキ、ヒスイカズラの作業を行った。カリアンドラについては環状剥皮をせず、周囲にスコップを入れる根切りの作業のみを実施し、後は他の植物と同様の作業を実施した。プセウドボンボックスの一種については、通路に近く、縁石が直近にあったことから作業は難航したが、温室内ということで、礫が無かったことが幸いし、何とか作業を実施することができた。

当初の予定では、6月に移送する計画であったが、工事状況等を勘案し、9月上旬に予定を変更した。この予定も工事の進捗状況やオーストラリアバオバブの搬入、定植作業の絡みで再度延期し、10月下旬に本園に移送することで長崎県観光振興課、当園の了解を得た。今回の作業は、当園での掘り上げ、積み込みまでを長崎県の造園業者へ、広島までの輸送を運送業者へ、広島へ輸送後の定植等を広島の造園業者にそれぞれ依頼した。当園での作業手順等の確認のため、本園職員1名が当園へ出向き、長崎県観光振興課、当園職員、長崎県の造園業者、輸送業者と最終的な作業手順の確認などの打合せを行い、帰広した。当園での掘り上げ（写真5）や積込は順調に進み、予定通り本園に植物が到着した（写真6）。その後は広島の造園業者に引き継いで定植作業を行い、数日かけて支柱立てまでの作業を完了した（写真7）。

最後に貴重な植物を本園に譲渡していただいた長崎県観光振興課および長崎県亜熱帯植物園の中西名誉園長はじめ職員の皆様に深く感謝申し上げます。



写真1 プセウドボンバックスの一種



写真2 トックリキワタ



写真3 ピンクイパー根回し作業の様子



写真4 プセウドボンバックスの一種の
根回し作業の様子



写真5 プセウドボンバックスの一種の掘り上げ



写真6 本園に到着したプセウドボンバックスの一種

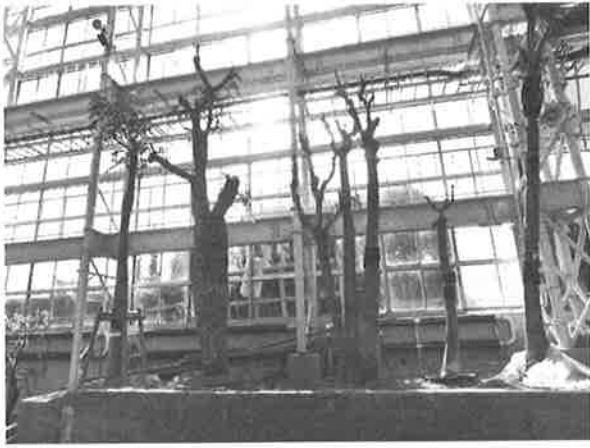


写真7 定植したトックリキワタとプセウドボンバックスの一種